

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	各領域で個人差が大きい。漢字の習熟、句読点や段落の使い方など定着が不十分な児童も多い。	文章を丁寧に読み進められるようにする。書く活動に進んで取り組み、適切な表現の仕方を身に付ける。漢字は、小テストを定期的に行い、定着を図る。	
社会	学校の周りや練馬区の様子について、意欲をもって主体的に調べたり、まとめたりしようとする児童が多かった。	さまざまな社会的事象の見方・考え方を働かせて思考できるように、資料の活用やグループ活動を多く取り入れ、思考を深めていく。	
算数	全体的に意欲的な児童が多く、集団で考える学習には意欲的であるが、練習問題に苦手意識がある児童が一定数いる。	児童の実態を把握し、習熟度別授業によって、レベルに応じた練習問題や発展問題を作成したり、自分の課題に合わせ問題を選べるようタブレット学習を取り入れたりする。	
理科	問題を見付け、予想し、解決方法を考え、検証するという問題解決の流れは、よく理解でき、主体的に学習しようとする児童が増えてきている。	学習を授業内に留めず、日常生活に生かすことができるよう、具体的場面から問題を設定していく。	
音楽	読譜に個人差がある。リコーダーは左手のみの運指を学んだが、タンギングや音色に気を付けて演奏できるように継続して取り組む必要がある。	簡単な曲の楽譜に階名をふることで、少しずつ読譜に慣れるようにする。リコーダーでは、範奏からタンギングや音色のイメージをもたせるとともに運指の徹底を図る。	
図画工作	図画工作の学習はおおむね好きであり、意欲的に取り組んでいる。	子供目線での試作や教材研究を通し、全ての子供がつくりだす喜びを味わえるような題材準備を行う。	
体育	全体的に体を動かすことは好きな児童が多いが、めあてを立て、達成するための工夫ができていない児童は少ない。	運動のポイントを示し、どのポイントができていて、どのポイントができていないのかをつかむため、教師や友達と見合う活動を取り入れたり、タブレットの撮影機能を活用したりして確認する。	
外国語活動	全体的に積極的に学習に取り組む児童が多い。外国語活動の学習に自信のない児童は、途中で取組を諦めてしまう様子も見受けられる。	各単元のめあてを提示し、児童が自信をもって学習することができるよう工夫する。ICTを効果的に活用するなど、児童が楽しく活動しながら自信をもたせる学習活動を工夫する。	